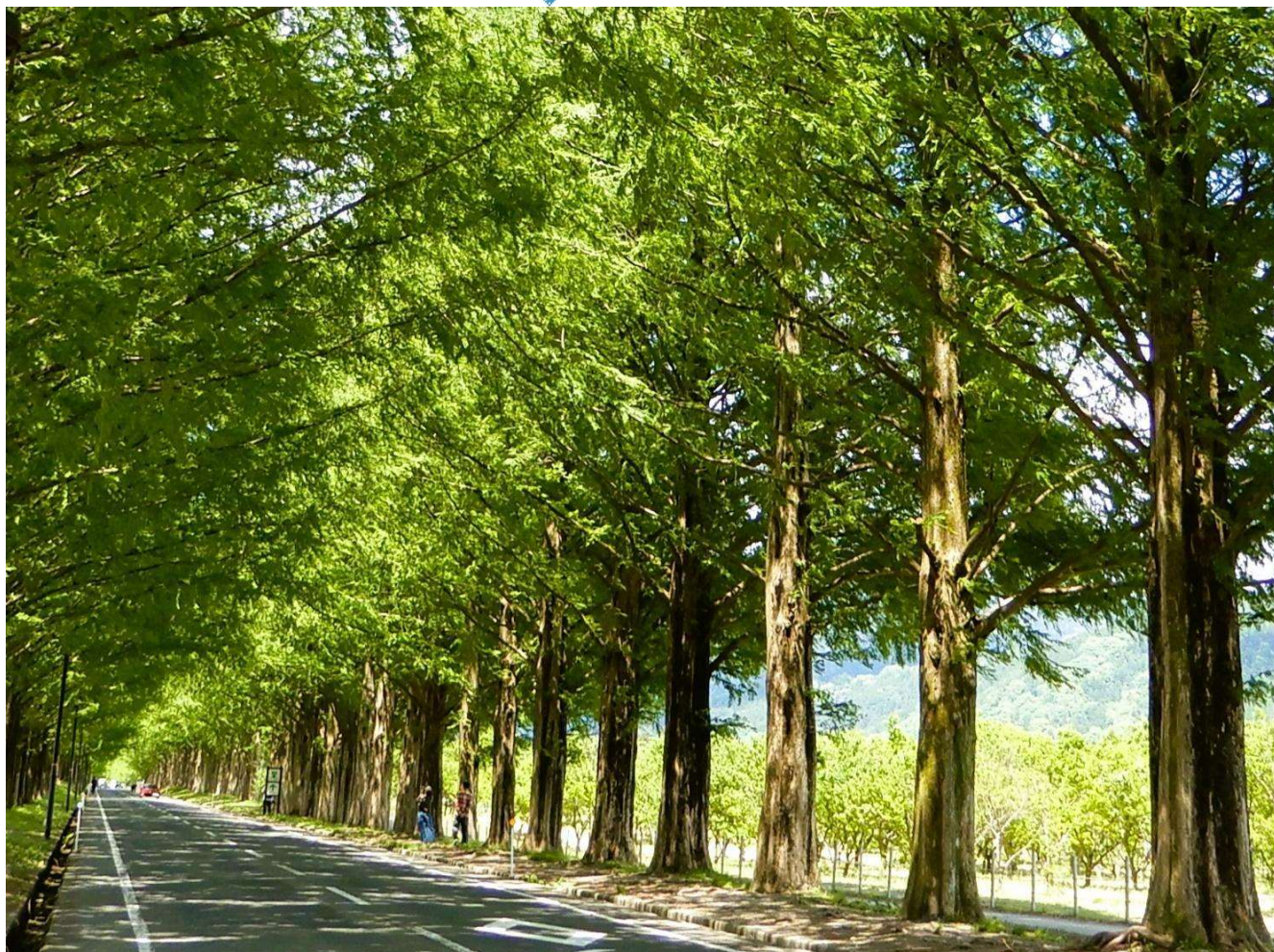


そ 爽 ふう 風

神戸市シルバーカレッジ情報誌
2026年6月号 第231号

新入生特集



「新緑のトンネル」 KSC 写真クラブ 国際31期 浅井 富美

2	33期生入学式（学長式辞、在校生歓迎のあいさつ、新入生のあいさつ、写真）
4	新入生の感想（全コース・専攻）
6	新入生歓迎交流会（全コース・専攻）
8	教室だより（32期生）（全コース・専攻）
10	30期生卒業式（学長式辞、在校生送辞、卒業生答辞、写真）
12	30期生歓送交流会（31期生）（全コース・専攻）
14	イベントだより
15	イベントだより・事務局だより・文芸サロン
16	グループわだより・図書室だより・編集後記

神戸市シルバーカレッジ情報誌「爽風」は、カレッジ内の行事・教室だより・サークル活動・トピックスなどを取り上げながら、学生だけの編集により発行しています。

「爽風」への情報・ご意見は、次のホームページからお寄せください。

<https://ksc-sofu.net/>

スマホでは右のQRコードからご利用できます。



神戸市シルバーカレッジ33期生入学式

令和8年4月8日午前10時30分より33期生304人の新入生を迎え、入学式が開催されました。

前田 潔学長の式辞のあと、31期健康ライフの本橋 平和さんの歓迎のあいさつを受けて、33期新入生を代表して、総合芸術コース園芸専攻の水尻 節子さんから新入生のあいさつが述べられました。



<学長式辞>

もし生まれたときに一生分のお金がきまっていたら？



もし、生まれたときに一生分のお金がすべて一つの口座に入っており、その残高を知らされないまま使っていくとしたら、皆さんはどのように日々を過ごされるでしょうか？ という問いかけから学長の式辞は始まりました。

実は「お金」とは、私たちに与えられた「時間」だったのです。時間は誰にも総量がわからず、静かに、しかし確実に減っていくのです。

そしてシビアとも言える数字を挙げながら、「皆さんには平均して15年から19年ほどの時間があるとされ、そのうちの3年間を本校で過ごされます。この3年間をどう使うかが、これからの人生をより豊かにしていきます。生きがいを持ち、自分は誰かの役に立っているという実感を生むことは、心と体の健康にもつながります。限りある時間を、自分らしく大切に使うてください」と新入生へのエールを送られました。



<在校生歓迎のあいさつ> 楽しむコツは手を挙げること

本橋さんは、「入学して早々から意識していれば良かったと思うことは、自ら手を挙げて参加することだった」と言われました。ご本人は、入学当初緊張し、すぐに手を挙げて参加することができなかったため、大変苦労したのだそうです。

それでも、参加してみてわかったことは、困った時や不安になった時というのは、仲間とのコミュニケーションが深まるチャンスであったのだ、ということです。具体的な課題に向き合い、みんなと話し合っていくうちに気心が知れて関係も深まり、そこから自分の居場所や安心も広がっていったと体験を語られます。

そして、それはシルバーカレッジは様々な人生を過ごされてきたクラスメイトとフラットな関係で知り合い、お付き合いできる、懐かしい学生時代のような雰囲気があるからだと分析しました。そして最後にもう一度、手を挙げて参加することの大事さを強調して、お祝いの言葉とされました。

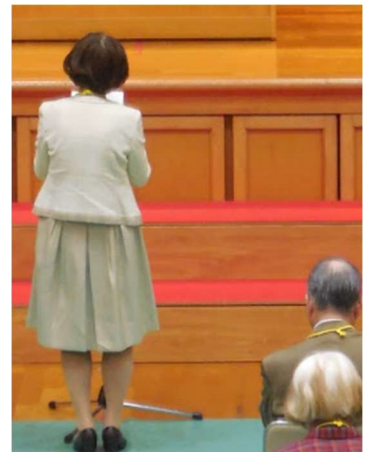


<新入生のあいさつ> お隣のお花と小学生見守り活動から

水尻さんの入学のきっかけは、春、自宅に咲く満開の花を眺めながら、「同じ花を植えているのに、なぜお隣の花のほうが、あれほど元気に美しく咲くのだろうか？」という疑問からでした。そこでシルバーカレッジで、園芸を基礎から学びたいと思ったのだそうです。

また、地域の小学校で登下校の見守り活動を続けている経験から、「毎朝、声をかける子どもたちの成長していく姿が何より喜びとなり、また、人とのつながりが広がり、地域のためにと考えて始めたことが、いつの間にか自分自身の心を豊かにしてくれていたことに気づいた」と語ります。

最後に、力強く、「本校のモットーである『再び学んで他のために』を胸に、仲間とともに学び合い、充実した学生生活を送ることをここに誓います。新入生の皆さん、共に学び、共に若々しく歩んでまいりましょう」と決意のことばを述べられました。



入学式当日の様子

令和 8 年 4 月 8 日に 33 期生の入学式が開催されました。ここでは当日の様子を写真で紹介します



シルバーカレッジ正面玄関



シルバーカレッジ校舎



受付の様子



入学式前の会場



入学式開始



新入生あいさつ



音文 31 期・32 期による校歌斉唱



ふれあいホールでのサークル紹介



アロハハワイアンズ

中庭パフォーマンス



太極拳クラブ

＜新入生の感想＞ 33期新入生の感想や今後への期待などをクラス代表にお聞きしました。

健康ライフコース

伊佐 常和

3年前シルバーカレッジの園芸専攻に入学して、この春卒業しました。そして、引き続きクッキングパバを目指して、第1希望の食文化専攻に応募しましたが、応募者多数のため、第2希望の健康ライフに再入学することにしました。



園芸で学んだ数々の花壇作り・農園では野菜や果実の実習・校外学習・教室の講義は中味の濃い、とても楽しく充実したものでした。

おいしく、ありがたい植物や果実を作っても、健康でなければおいしいと感じられないこともあります。人生で一番大事なことは、生き生きと目的意識を持ちながら、楽しく健康な毎日を過ごすということだと思います。

クラブ活動にたくさん入り、友達もたくさん作り、有意義な3年間にしたいと思っています。

国際交流・協カコース

服部 隆行・山崎 聡一

人間の煩悩に三欲(食欲、物欲、性欲)があります。年齢を重ねることですべて「知欲」に置き換わるのではないかと感じています。



これまでの三欲(試験のための勉強、学校受験のための勉強、昇進のための試み、儲けるための情報収集など)を全部捨て、講義を通じて知的欲求を満たし、新たな成長の糧にしたいと考えています。

「こんなこともあるんだ」「へー知らなかったな」「アリヤマあ」など様々な方との交流も楽しみです。まだ数日ですが、上級生の活力ある学生生活の姿をみて大いに刺激を受けました。

これまでの半世紀近い社会人生活ですっかり型にはまってしまった人間関係の殻を打ち破ることができるのか、非常に不安です。しかし、学生生活を通して新たな世界が待っているという大きな期待に胸を膨らませています。これからの3年間で大いに楽しもうと思っています。

ECOライフコース

細川 泰行

ECOライフコースは、33期は29人(男性15人 女性14人)の少数精鋭です。再入学の方も相当数おられます。入学してまだ1か月足らずですが、和気あいあいと過ごしています。



入学の動機は、「地球環境に大きな関心がある」「地球温暖化を懸念している」「ごみ問題に取り組みたい」「認知症予防の脳トレの一環として」「健康上の理由」など様々なようです。私は単に毎日のルーティーンがなくなったための居場所探しかもしれません。

シルバーカレッジの設備、またスタッフ、講師、同級生との触れあいを通じて、今後楽しく有意義な時間が過ごせそうな期待がわいてきました。

通学には少々時間や費用がかかりますが、このシルバーカレッジ生活を通じて自らの居場所を確立させたいと考えています。

美術・工芸専攻

福原 麻里・大和 一朗

希望していた美工に入学して、新しい挑戦に日々楽しんでいます。入学と同時に楽しく笑い合える仲間や友ができてクラス代表にもなりました。皆さんと共に学ぶ時間は、忘れていた学生時代を思い出す青春の香りがします。これから過ごすシルバーカレッジでの3年間、とても楽しみでわくわくしています。



授業も始まりました。陶芸、絵画は思っていた以上に難しく悪戦苦闘しています。特に陶芸は、「ONLY ONE」を形にした作品づくりを楽しみたいと思っています。皆さんに披露できる日を楽しみながら挑戦を続けたいと思います。

クラス代表としては、皆さんとのコミュニケーションをよりいっそう大切にしながら、思いやりのあるクラスづくりをし、これから過ごす3年間、仲間とともに楽しい学びの場を作っていきたいと思っています。

音楽文化専攻

「ヨーイドン！」おひさま33 伊賀 元俊
入学式の翌日のことです。「音文の1年生は5月の歓迎交流会で歌うよ」担当の高山さんに突然言われました。「えー、ウソでしょ！」今日からたった1か月で合唱をしなさいということです。曲を選び、伴奏者と指揮者を決め、チーム名も決め、なにより自分たちだけで、しかも授業時間外に練習しないといけません。



突然号砲が鳴って「ヨーイドン！」全力疾走が始まりました。緊急班長会議、アンケート、臨時ホームルーム、投票、譜面作り、音源作り、練習計画、ああ目が回る。それでもクラスみんなが支えてくれました。どんどん意見やアイデア出してくれ、積極的に役割を担ってくれます。みんなと一緒に走り出すことができたのです。選曲では、寅さんトミーが熱い思いを語り、衣装は女性班長たちが何度も会合を開き、いろんなことが具体的になり、実現していきました。さあ、いよいよ本番。素晴らしい仲間たちと、感動を一緒に味わいましょう！

食文化専攻

橋本 賢一・稲田 薫
リタイア後の時間をより健康で活動的に過ごしたいと思い、体系的な学びの場を求めて入学しました。日々の料理を基礎から学び直してレパートリーを広げることで、自立した豊かな食生活を築きたいと思っています。いざ入学してみると、男性受講者の多さや活気あふれるクラブ活動など想像以上に新鮮な驚きがありました。



先日初めての調理実習では、自己流ではわからない多くの気づきがありました。また先生のご指導を頂きながら仲間と協力して一皿を仕上げる楽しさと、自分で作った昼ご飯の美味しさが身にしみました。この賑やかな実習の時間は、これからの学生生活において大きなモチベーションになりそうです。充実した環境でよく学び直し、学生生活を謳歌して積極的に外の世界へ踏み出す毎日にしたいと考えています。学びを通じて得た知識を活かして、少しでも世の中への恩返しができるようになればと思います。

園芸専攻

神例 邦明
美術・工芸専攻から再入学しました。この3年間、授業、クラブ活動と、シルバーカレッジの生活が日々の生活の中心になり、充実した時間を過ごせました。今後、シルバーカレッジ生活がなくなれば、特にしたいこともないし、それならば再入学しようと思いました。



もともと園芸が好きで、庭で野菜や花を育てていました。園芸コースは、座学に加えて実習もあるため、野菜をうまく作れることを期待して園芸コースに入学しました。もう一度、園芸の基本的なやり方や深い知識を身につけ、今までよりも良い収穫を目指して楽しい園芸ライフができればと思います。そして、新しい学科、クラブなどで新しい人間関係が広がればと思います。

ご存知ですか？



6月
カレッジの花だより
紫陽花の一種
『ラグランジア』

紫陽花の新しい品種「ラグランジア」は従来の紫陽花が一つの枝に一つの花を咲かせるのに対し、「すべてのわき芽（側芽）に花がつくため、株全体が花で覆われる」という画期的な特徴を持ちます。

この紫陽花の常識を覆す人気のラグランジアがシルバーカレッジの花壇にあるのをご存知でしょうか？



カレッジ前、防火水槽の横に咲いています



実はこのラグランジア、園芸コースの1年生が管理して育てています。皆さんも可愛く咲いているラグランジアを愛でて癒されてくださいね。

(※ 6月末になると徐々に咲き終わります)

＜新入生歓迎交流会＞ 歓迎の気持ちは伝わりましたか？ 33 期の情報誌編集委員の感想をききました。

健康ライフコース

荒木 育夫・山下 宏明

入学して1か月経過し、まだなじみがないなかで歓迎交流会が開催されました。

歓迎の挨拶で、2年生の右立さんから「共に悩み、共に苦しみ、切磋琢磨する同期生の姿が力になる。カレッジ生活を楽しみましょう」という言葉をいただきました。

続いては、人形劇ゆめ、オカリナチーム、男声合唱団、マジック同好会、太極拳の表演でした。

3年生の本橋さんから「今を楽しみましょう」、また2年生の野上さんから「カレッジ生活は授業の外が楽しい、何にでもチャレンジしましょう」という言葉をいただきました。1年生代表の梶原さんからは、この会への感謝と、ここは社会実験の場だとの話がありました。退場時に2・3年生から記念品として筆記具をいただきました。

シルバーカレッジでは、何事にも積極的に参加し健康であることが大事だと痛感しました。



国際交流・協力コース

巽 康準・三枝 佳弘

皇月の霧に包まれたシルバーカレッジで、国際交流・協力コースの新入生歓迎交流会が開催されました。

KSC校歌斉唱、事務局コーディネーターの山川さん、スタッフの権田さんの紹介に続き、3年生の服部さんから、歓迎の言葉「シルバーカレッジ入学78歳は、まだ若造、色々な人生経験者と友達の輪広がる」をいただきました。さらに、2年生クラス代表の大西さんから「人生の黄金期へようこそ！ネパールの奥地での1か月歯ブラシの使い方教室ボランティアの実体験」を紹介され「シルバー」を“ゴールドに磨く”という言葉が印象的でした。

続いて2年生の栗山さんから「ここだけの話？2年生のぶっちゃけアンケート白書」をご紹介いただきました。そのあと、世界の鮮やかな民族衣装を装う2年生KOBE SENIOR'S COLLECTIONSは、16名の大迫力で異文化の香りに包まれました。

最後に、この素晴らしい交流会を開催してくださった諸先輩方々に対して、1年生クラス代表の山崎さんからお礼の言葉を申し上げ、閉会となりました。



ECOライフコース

藤井 昌治・木下 史郎

4月に入学以降、シルバーカレッジの先輩、同級生のイキイキした姿に刺激を受けながら、あっという間に1か月過ぎました。そして本日、「エコライフコース33期生歓迎交流会」を開いていただきました。

30期生のグループ学習の紹介を兼ねたECOに関するクイズで頭に良い汗をかいた後、32期生による「ハチドリのひとしずく」の朗読劇を楽しみました。ハチドリのクリキンディが山火事に立ち向かう姿に、課題の大きさに怯むことなく取り組むことの大切さを学びました。

ECOライフコースの魅力についてグループごとにフリートークで脳内を整理、32期生の皆さんの学びの中から、自然農業の川口 由一さん、ミャンマーの育林家のウ・ウォンさん、音楽家の坂本 龍一さんの活動を紹介していただきました。たくさんの山の学びの後には、懐かしい青春ソングやシルバーカレッジ校歌の合唱を楽しみました。

31・32期生の皆さんの心温まる演出のおかげでこれからのカレッジ生活に期待で胸がワクワクしています。



美術・工芸専攻

山口 記由・安達 有吾

33期生の新入生歓迎交流会は、初めにハワイアンズのフラダンスを皆で一緒に踊ったり、マジックショーなどのアトラクションで、楽しみました。また、事務局の加藤さんの手作りの紙芝居は、とても素敵なものでした。皆様が、様々な行事で温かく歓迎してくださり、感謝・感動でした。

また、32期生からの一年間の学園生活の紹介では、美術館への校外学習もあるがわかり、交流タイムでは自由にやりたい事を楽しめばいいんだ、と教えていただきました。

美工生は形のない所から新たなものを造りだす楽しさを求めているのだ、という先輩の言葉が印象的でした。今後、新しい何かを創ることの苦しみと喜びを楽しみたいと思います。

私達は、クラス40人と昨年より多い人数で入学しました。この2か月、次に何があるのかわからないまま追われるように学園生活を過ごしてきましたが、今後の学園生活をもう少し余裕を持って前向きに楽しむことができそうです。



音楽文化専攻



小比賀 由利子・飯塚 譲二

5月19日、音文33期生歓迎交流会がレジャホールで行われました。

私たち音文40人（男性16人、女性24人）が緊張した面持ちで入場すると、開会挨拶、校歌斉唱、3年生の歓迎の言葉へと進み、合唱交流が始まりました。2年生、1年生、3年生と合唱披露が続くのです。

私達の選んだ曲名は「大人のアンパンマンマーチ」です。やなせたかしさん作詞で、切ない歌詞なので合唱も感情を込めた歌い方にするために、アイデアと工夫を凝らしながら練習に励み、今日を迎えることができました。

音文33期生のニックネームは、“おひさま33”です。今回の合唱練習を通して、クラス代表、班長主導で、明るく元気な音文33期生の団結力を見ていただけたと思います。



31・32期の先輩の方々には、心のこもった楽しい歓迎会を開いていただき、感謝しております。ありがとうございました。

園芸専攻

廣島 由美子・薬師寺 秀和

5月20日、園芸専攻の新入生は大きな拍手で迎えられました。32期の温かい歓迎の挨拶で始まり、来賓の金地先生からも新入生のこれからの園芸活動を応援する心強いお言葉をいただきました。

フォークソングクラブの演奏では、心地よい歌声と音楽に会場の拍手が鳴り響きます。その後の先輩方との楽しい意見交換会では新入生からたくさんの質問が飛び交い、いっきに距離が縮まる素敵な時間となりました。

これからの学園生活では仲間との連携を大切にしながら、充実した3年間を楽しんでほしい、またクラブ活動への参加も毎日をさらに有意義にしてくれる、との貴重なアドバイスもありました。

最後は、神出自然教育園の皆様が栽培された立派なマリーゴールドを手に全員で記念撮影、これからの3年間に期待が膨らむ、笑顔いっぱいの交流会になりました。



食文化専攻

鍵谷 和彦・鶴 恒芳

5月20日に食文の新入生歓迎交流会が行われ、本当に楽しい一日を過ごすことができ、33期生全員が歓迎を受けていると感じました。

プログラムには、4つのアトラクションがあり、アロハハワイアンズのフラダンス・太極拳の披露・オカリナ演奏・ダーツスロー体験でした。各クラブの演目はすべて素晴らしかったです。体験型のフラダンスとダーツスローは、見学者も一緒に参加できる楽しい企画でした。フラダンスは、見学者もレイをかけてもらい、一緒に参加して踊り、楽しく貴重な経験になりました。ダーツスロー体験は、全8班代表の勝ち抜きで優勝を決するため、各班は代表者の応援に力が入り、班の団結力が高まりました。



32期生代表が言われた「食文で学んだ料理を、孫に食べさせて『ジジおいしい』という言葉をもらう」がとても印象的でした。歓迎会企画・実行して下さった方々に感謝します。今後もご指導をお願いします。

記念のクッキーありがとうございました。

ご存知ですか？

しあわせの村の野鳥

しあわせの村にはこんなにたくさんの種類の鳥がいるそうです。



シロハラ（12月～2月）



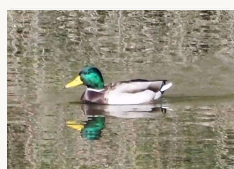
インホドリ（通年）



ヤマガラ（通年）

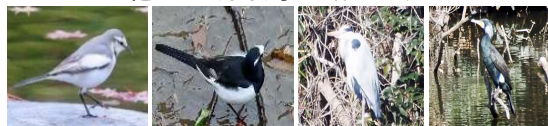


メジロ（2月～4月）



マガモ（11月～4月）

他にもこんな鳥たちがいます。



<教室だより> 32期新2年生代表に1年生の思い出、2年生への抱負などを自由に書いていただきました。

健康ライフコース

右立 利盛

入学時、不安と希望が交錯していました。授業が進むにつれ教育内容の充実を知って安堵しました。講義は健康長寿のためのフレイル予防・認知症予防など多種多様で、校外学習や地域交流会も意義深いものでした。スポーツはペタンク、ローンボウルズなど未経験でしたが楽しかったです。

印象に残ったのは、①打楽器奏者「山中 祐起子」さんの演奏が巧みで躍動感があり感動した②調理実習では、料理を上げる手順が楽しく完食した③フレイル結果は老化を少々感じた、の3点です。

今後は、引続き「映画サークル」で、校外鑑賞会や茶話会も企画し、親睦を深めながら、交流を深めていきます。「川柳くらぶ」では穿ち(うがち)・軽み・笑いを共感し交流を深めていきます。

クラス活動はひとりひとりの「人」で形成されます。みんなの意見を尊重し「報・連・相」を基本としてスピーディ、タイムリーに、かつ無理せず穏やかに活動するつもりです。



(ペタンクの様子)

国際交流・協カコース

栗山 健一

昔のレコード盤はメインの楽曲のA面とマイナーな楽曲のB面が楽しめました。企業人として活躍した私の人生をA面とするなら、役職定年となった60歳以降は人生のB面です。

B面にはB面なりの楽しみ方があると思っていましたが、実際に一線を退くと、淡い喪失感に襲われ、さらに妻を亡くし、私の人生のB面は深い喪失感の最悪のスタートになりました。夜も眠れず、気持ちがふさぎ込み、このままではダメだ、何か始めようとネットでシルバーカレッジを見つけました。

シルバーカレッジでは私より年上で魅力的な方がたくさんいて、教室やダーツクラブで、いつの間にかあいもなく語り合う仲間ができました。そのうえ2年生からはクラス代表にもなり、余計なことを考えず疲れてすぐに眠れるようになりました。

涙を流すほど笑い合える人と出会え、人生のB面もなかなかいいものだと思うようになりました。まだイントロが始まったばかりなのだと。



ECOライフコース

樋口 浩一

「それ、虫と違うで、プラゴミのかけらやん」 そう言われて、虫メガネとピンセットを手にしたまま「もう老眼の眼には殺生な作業やで」と、無邪気に笑ってる・・・そんな風景が実習室のあちこちに広がった昨年の授業での一コマです。キャンパス周りの



土を採取して土壌生物を観察する実習で、みんな童心に戻って土遊びと虫さがしに夢中でした。

振り返れば身近な動植物や自然に直にふれる授業が多かったです。「しあわせの村」内の植生や野鳥観察、馬事公苑をはじめ、校外では六甲山上の他、外来生物展示センターや人と自然の博物館などを訪れ、生物多様性と共生の大切さを学ぶことができました。

一方、座学では、冒頭に見た様なマイクロプラスチックの地球規模での拡散などの深刻な環境問題、またある国での国外から持ち込まれた色とりどりの衣類が、果てしもなく広がる処分地の光景は衝撃的でした。改めてECOの考えや取組の重要性を実感し、さらなる学習の励みとなりました。

美術・工芸専攻

品川 和子

手探りで過ごした1年間は周りの方々にはささえられながらあっという間に終わりました。

水彩画でやかんが光っているように描くのが難しかったこと、陶芸で茶碗の底が欠けて一から作り直したこと、石ころアートの石を探し回って結局クラスの人にいただいたこと、思い返すとみんなに助けていただいた1年間でした。登校するのがしんどいなと思ったときもみんなと話して元気をもらい頑張れました。楽しかった～！



1年生で仲良くなって助け合った班の人達とも別れ、何かと「2年生が中心となって」と言われる学年になりました。新入生歓迎会に始まり、学園祭も控えています。新班の人達とも仲良くなって、クラスで協力すれば乗り越えられるのではないかと考えています。

2年生から違うサークルにも入る予定なので、実はすごく楽しみにしています。新たな人脈を作って友達の輪を広めれば、きっと良い1年が過ごせることでしょう。

音楽文化専攻

佐野 紀美子

昨年4月、補欠1位でシルバーカレッジ音楽文化専攻に入学することができました。繰り上げ入学の連絡が届いた時、これでもう今年1年の運は使い果たしたと思いましたが、入学後もいいことがたくさんありました。



一つは、すばらしい先生方による講義です。興味深い内容とユーモアのある話し方に、教室の中にはしょっちゅう笑いが起こります。また一流の演奏家による音楽鑑賞の時間は、毎回美しい楽器の音色を聴きながら、贅沢な時間を過ごしているなと感じました。

もう一つは、素敵なお仲間たちとの出会いです。授業がある日はいつも、始業前や昼休み、放課後に次の行事に向けての合唱の練習でたいへんですが、仲間とのハーモニーの中に身を置いていて楽しくて、もっと歌いたくなります。

あっという間の1年間でした。これからの1年間はさらに忙しくなりそうですが、大いに楽しんでいきたいと思います。

園芸専攻

南 小治郎

園芸専攻は総勢14人と少数ですが、皆さんと協力しながら活動しています。学園行事・クラブ・ボランティア活動などでも2年生が主体となることが多く何かと大変ですが、とにかく今を楽しむことでクリアできればいいと思います。



入学当初まで、私は野菜や果物は季節に応じて買って来て食べるだけでした。しかし授業では、畑の畝作りから始まり、種まきや苗植え・水やり・肥料まき・草抜き・収穫と一連の作業工程を終えて、育てた野菜をやっと食べることができました。また、園芸は水やりがたいへんだと聞いていましたが、設備などを改善・支援してくださっていますので、私自身は問題ありません。それより、雑草・カラス・バッタなどのほうが天敵で、たいへんかなと思います。

2年生では果樹を主体に学ぶので、自宅でも超狭いベランダで植木鉢に果樹を栽培しています。今は1年目に学んだラディッシュ、レタスをプランターで栽培し食卓に並べています。

食文化専攻

大西 農夫明

「いろいろな料理が作れるように」と思い、食文を専攻して早いもので1年が過ぎました。



この1年間は、たまには調味料を入れ忘れてりしながらも、ただただ言われた通りにするだけで一所懸命といった感じでした。

3月には1年間の総まとめとして、自分たちで何を作るかを決め、班ごとにレシピ作りから調理までを四苦八苦しながらなんとか完成させました。先生からは甘めの評価をしていただき、調理の締めくくりとなりました。


2年生になり班編成も変わり、1年生の時以上に名前と顔が一致するようになりました。雰囲気も和やかになって、楽しみながらワイワイと作業をしています。

また、2年生になると学園行事、クラス活動、クラブ活動、そして委員会活動を主体的に計画から実行までする役割を担う人が増えているので、皆の協力を得ながら楽しい学園生活ができればいいな、との思いを抱いています。


ご存知ですか？ リサイクル回収ボックスがあるよ！

ふれあいホールの事務所側、落とし物箱のあるところにひっそりと置かれています。


学園内の廃棄だけではなく家庭で不要になった「小型家電」「電池」「廃食用油」を入れることができます。



小型家電




電池



廃食用油

未来のために
みんなでリサイクル



ゴマ油やサラダオイルの廃油で飛行機が飛ぶなんて驚きです。さすがエコライフを学んでいるだけあるカレッジです。でも大きな家電や廃油以外のものは捨てないでくださいね。
 マナーは守りましょう。

神戸市シルバーカレッジ30期生卒業式

令和8年3月24日思い出の詰まったカレッジホールで神戸市シルバーカレッジ30期生の卒業式が執り行われました。学長の前田 潔さんの式辞と31期国際交流・協力コースの飯田 光治さんによる送辞を受けて、30期卒業生代表、国際交流・協力コースの堀口 彰さんが答辞を述べられました。最後に31期音楽文化専攻のシルバーカレッジ校歌斉唱で式は終わりました。



<学長式辞>

欠点を許容しあう寛容な友人こそ



はじめに30期生262人が卒業を迎えられたこと、3年前の2023年4月には309人が入学されていたことを報告されました。そして「学園生活は楽しかったですか？よい講師、よい友人や仲間との出会いはありましたか？」と問いかけられ、満足されていたなら、シルバーカレッジ関係者にとっては望外な喜びであるとの思いを述べられました。

次に、今年度の卒業生の平均年齢は73歳、平均余命からすると、男性は約13.44年、女性は約17.41年の時間があることに触れられ、卒業後にどう生活をして過ごすかを問われました。その例として本学に再入学される方や他の高齢者大学に入学される方が37人いることを伝えられました。

また友人との付き合いを維持するには「欠点を許容し合う寛容さ」が必要であること、時間つぶしに付き合ってくれる友人や愚痴をただ聞いてくれる友人は貴重であることと述べられました。そして最後に、「ここで一緒に過ごした仲間や友人を卒業後も大事にしてください」という言葉で締めくくられました。



<在校生送辞>

これからも充実した「林住期」を

卒業を祝福する言葉のあと、前学長の服部 さちこ先生の著書「シニア世代の学びを社会に活かす」の内容を紹介しながら、「古代インドでの人生を4つの時間を区分する四住期からすると、我々は林住期（仕事や家庭のことから解放されて、生き斐を求めて生きる人生の中で最も輝かしい黄金期）に当てはまると思われます。その林住期の貴重な3年間をシルバーカレッジの各コースの学習で、新たな知識を得られ、クラブ活動、地域交流活動、ボランティア活動で、多くの出会いがあり、有意義な時間を過ごされたことと思われます」と述べられました。

国際コースの30期生のアンケートで、友人や知人にシルバーカレッジへの入学を勧めますか？という質問に全員が「Yes」と回答されたことから、改めて卒業生の皆さんはシルバーカレッジに満足され、シニア世代の素晴らしい学びの場になっていると再確認したことを伝え、これからも充実した「林住期」を送られますようにと締めくくりました。



<卒業生答辞>

仲間とともにやればできる、まだまだできる



最初に卒業式の開催に感謝の気持ちを述べられ、この3年間を「光陰矢の如し」と表現されました。10年余り神戸を離れていたため、帰神後の生活を思案していたところにシルバーカレッジを知り、入学を決められたそうです。そして実際に本校で「充実した楽しい」生活を実感し、納得されたとのことでした。

思い出深いこととして、グループ学習での専門書やネットの調査、フィールドワーク等を通しての喧々諤々の議論、報告書やプレゼン資料の纏めによる頭脳労働に達成感を感じたことを挙げ、「やればできる、まだまだ成長できる」ことを実感されたそうです。またクラブやボランティア活動でスポーツや趣味を通して、多くの仲間ができたことを挙げられました。そして大切なレガシー（受け継いだもの）の一つは人と人との「絆」としてとされています。

今後は「絆」を大切に「再び学んで他の為に」の精神を忘れず、それぞれに新たなチャレンジをして歩んで行く、という決意をのべられました。最後にカレッジのさらなる発展とお世話になった方々のご多幸とご健勝を記念され、答辞の締めくくりとされました。

卒業式当日の様子

令和8年度3月24日、30期生卒業式当日の様子を紹介します



正面玄関での記念撮影



卒業式開始



卒業証書授与



卒業証書授与



学長の式辞



在校生送辞



卒業生答辞

卒業式が終わり、コース、専攻ごとの集合写真



＜歓送交流会＞卒業された30期生のため企画した交流会の様子を31期情報誌編集委員が報告します。

健康ライフコース

常深 秀成・高島 忠義

3月10日に健康ライフコース30期生の歓送交流会が開催されました。当コースは3学年総数が約190名と多いため、前面フロアに全員の椅子を配置するのは断念し、フロアに3年生が階段席を向いて着席し、1・2年生は階段席に座る対面配置を採用しました。そして、入場から退場までのすべてのプログラムをフロアスペースで行いました。



フォークソングクラブの生演奏に合わせた全員合唱で開始した後、グループ学習とクラブ活動の2テーマについての交流座談会を行いました。6人の3年生からの体験談、苦労話やアドバイスは1・2年生の今後に大いに参考になるものでした。

後半は、司会者の軽快なトークとシルバーカレッジクイズで大いに盛り上がった後、1・2年生代表の送辞、3年生代表の答辞で締めくくりました。最後は「上を向いて歩こう」の生演奏で3年生を送り出して閉会しました。

国際交流・協力コース

安田 維之

まだ寒さの残る3月10日、国際交流・協力コースの歓送交流会が午後1時から開催されました。

2年生クラス代表の挨拶では、世界情勢を交えながら、3年間の出来事を振り返りました。

続くアトラクションは、3年生グループ代表が舞台上上がり「3年生へのアンケート結果発表」から「〇×クイズ」へと和やかに進みました。続いて「みんなで楽しく歌おう」で、「風」



「昴」「さらば青春」「乾杯」の4曲を全員で歌いました。3年生はホームルームの時間に練習していたそうです。卒業式を控えた3年生にとってカレッジ生活を締めくくるよい思い出となったことでしょう。最後はKSCフルートクラブ・フルーツパフェによる演奏が華を添えました。

1年生クラス代表による「3年生を送る言葉」と、3年生クラス代表の「お礼の言葉」で歓送交流会は幕を閉じ、温かな拍手の中を3年生は退場しました。

ECOライフコース

飛鷹 敏子

3月11日、1・2年生の拍手に迎えられて3年生が入場し、生活環境コースの歓送交流会が始まりました。来賓の挨拶の後、3学年が7組に分かれてのグループディスカッションが始まりました。

前半は、グループ学習で楽しかったこと、工夫したことの話で、1・2年生は、気になることを質問しました。次に30期生の思い出のス



ライドショーが上映され、入学式、校外学習、グループ学習発表会などの懐かしの映像を鑑賞しました。後半はフリートークで真剣な眼差し、笑顔、笑い声のうち終了しました。

続いて、「ECOキャンディーズ」のリードで、ギター演奏にのせて「校歌」「春一番」「乾杯」を全員で合唱し、会場のボルテージは最高潮に達しました。最後に31期の霜出さんによる送る言葉、30期の石田さんのあいさつと、桜の花のアーチをくぐり30期生が退場しました。

生活環境コース30期生の皆様に幸多かれ！！

美術・工芸専攻

山本 哲也

3月11日13時30分より、30期生をカレッジホールにお迎えし、歓送交流会を行いました。

司会の31期の二田さんの開会宣言の後、事務局の加藤さん、31期の黄瀬さん、司会者の3人によるスライド



ショー「3年間の思い出」で入学式から卒業間近の現在までの道のりを振り返りました。

その後、①3年生による「卒業制作で伝えたいこと」とタイトルしたプレゼンテーション②32期クラス代表による「贈る言葉と記念品贈呈」（記念品は講師の先生が作成された陶芸作品）③30期クラス代表の「閉会宣言」と続き、最後は記念撮影とアーチくぐりを行って歓送交流会を終了しました。

なお、シルバーカレッジHPの美工31期のコーナーに写真中心の記録をアップしていますのでご参照ください。

音楽文化専攻

横山 光代

2月27日、30期生の歓送交流会が行われました。午前中の発表会を振り返る30期生のご挨拶から会は始まりました。どうすれば良いパフォーマンスを生み出すことができるのか、30期生の努力の過程をユーモアを交えて明らかにされました。披露された和太鼓もパーカッションも圧巻の演奏でしたが、速やかなステージ運びも見事でした。さらに合唱曲「あの素晴らしい愛をもう一度」「ほらね」「サリマライズ」もまた見事に歌い上げておられたのです。



その感動を胸に、32期生は、「故郷」「愛は勝つ」、31期生は「365日の紙飛行機」「心の中にきて」をそれぞれのカラーを出しながら合唱しました。

なんと、サプライズで今年度は齊田先生(合唱指導)と松村先生(和太鼓指導)の朗々たるデュエットも聞くことができました。来賓の方々も含めて参加者全員の喜びと一体感を感じながら歓送交流会を終えました。

私たち在校生は3年生の演奏に大いに励まされ、次年度の授業に全力を注ぐことを心に誓いました。

園芸専攻

明石 達雄

3月9日午前10時、神出自然教育園より贈られた美しい花たちに出迎えられて卒業生が入場し、歓送交流会の開会が宣言されました。



31期代表の水谷さんの開会挨拶の後、来賓を代表して金地 通生先生よりご祝辞を頂きました。続いて卒業生作成の「思い出アルバム」が上映されました。3年間の学園生活、昨年の歓送交流会で披露された「大根踊り」のメイキングビデオ、自己紹介など多彩な内容でした。

アトラクションは「豪華賞品!」が出たビンゴゲーム、フォークソングクラブによる素敵な演奏で楽しませていただきました。

その後、卒業生を代表して澤田さんより在校生へ贈る言葉と記念品の贈呈が行われました。また本年3月で退職される棚橋 徹氏へ学生一同より記念品が贈呈されました。棚橋さんありがとうございました。

最後に32期代表の松本さんの閉会の挨拶の後、卒業生が退場され、歓送交流会は盛況のなか幕を閉じました。

食文化専攻

笹部 勇

3月9日、食文30期の歓送交流会が開催されました。懐かしい音楽と在校生の手拍子に合わせ、30期生の先輩方が晴れやかな表情で入場されました。その姿は、3年間の歩みを物語るように自信と達成感にあふれていました。



来賓の安田 敬子先生から祝辞をいただいた後は、お楽しみ時間です。アトラクションや3年間を振り返るスライドショー、思い出のエピソード紹介などが行われ、会場はたくさんの笑いと熱気に包まれました。また、先輩方からは後輩へ向けて、温かいアドバイスや励ましの言葉も贈られました。今年の卒業の歌「上を向いて歩こう」の全員での大合唱は、会場が一つになる感動的なひとときとなりました。

お見送りでは、食文恒例の手作りクッキーが贈呈され、在校生の盛大な拍手の中、30期生の先輩方は晴れやかに会場を後にされました。

ご存知ですか?

休校の基準が変わりました

事務局よりお知らせ



気象庁発表の「新たな防災気象情報」の運用が令和8年5月29日から始まり、あわせて休校等の取扱いが下記のように実施されます。

1. **休校の判断**：午前8時の時点で「神戸市北区」に下記のいずれかの発表があるときは全日休校です。
△警報：大雨・土砂災害・氾濫・暴風・大雪・暴風雪
△危険警報：大雨・土砂災害・氾濫
△特別警報：大雨・土砂災害・氾濫・暴風・大雪・暴風雪
2. **休校時の連絡**：神戸市シルバーカレッジホームページのトップページの「緊急のお知らせ」で連絡されます。
3. **休校になった授業の振替**：休校となった時の授業は、後日に振り替えて実施されます。
4. **通学の自粛**：休校になっていない場合でも、午前8時以降に居住および通学経路にあたる区に、上記の発表あるときは通学を自粛してください。その場合の欠席は「出席認定願」の提出により出席扱いになります。
5. **その他**：午前8時以降に上記のいずれかの発表時は、その時点で休校になり下校。災害の発生が切迫する場合はカレッジホールへの避難誘導等が行われます。

イベントだより

KSC太極拳クラブ

- 夏季表演会 8月
- 学園祭表演 10月10日(土)
(詳細は掲示板及びホームページにて告知)
- ★クラブ員による太極拳表演
- ▼連絡先: 高木 基實

KSCフォークソングクラブ

- サマーフォークパーティ
7月25日(土) 13時~17時
たんぼぼの家 入場無料
- 学園祭出演 10月10日(土)
- クリスマスフォークパーティ
12月5日(土) 13時~17時
あおぞら 入場無料
- ▼連絡先: 白玖

絵画ボランティアグループ

- 2026年夏のギャラリー
絵画陶芸VG合同作品展
7月7日(火)~12日(日)
10時~17時(※最終日は16時まで)
神戸市生活創造センター展示ギャラリー
(新長田合同庁舎1F)
市営地下鉄・海岸線駒ヶ林駅(徒歩2分)
JR山陽本線・新長田駅(徒歩10分)
入場無料
- ★絵画約40点展示(水彩・油彩: 静物画、風景画、人物画) 陶芸作品約70点
計110点 展示予定
- ▼連絡先: 絵画VG代表 白川 友彦

陶芸ボランティアグループ

- 2026年夏のギャラリー
絵画陶芸VG合同作品展
7月7日(火)~12日(日)
10時~17時(※最終日は16時まで)
新長田合同庁舎1階ギャラリー会場
入場無料
- ★主として陶芸VGの活動として「ケアプラザそよ風ながた」の方々の陶芸作品の展示と活動報告及びVG会員の作品展示を行っています。多くの方のご来場お待ちしております
- ▼連絡先: 陶芸VG代表 長江迄

KSC写真クラブ

- 第25回クラブ展
2027年2月8日(月)~
2027年2月14日(日)
10時~17時(※初日13時開場、最終日
14時閉場)
新長田合同庁舎 展示ギャラリー
入場無料
- ★写真クラブは、①撮影の基礎を学習 ②年6回ほどの撮影会を関西域内で開催 ③撮影会及び自主的に撮った写真を互選会で客観的に評価、が主な活動です。これらの活動の集大成としてクラブ展があります。皆さまのご来場をお待ちしております。
- ▼連絡先: 岩佐

オールディーズクラブ

- サマーフェスティバル
8月30日(日) 10時~15時
たんぼぼの家 入場無料
- ★広瀬一葉先生のピアノ伴奏によるクラブメンバーのソロまたは複数人による歌唱会を行います。オールディーズの中から自身の好きな曲を歌います。皆さん、たくさんのご来場をお待ちしています。
- ▼連絡先: 吉岡 孝史

にこ二胡愛好会

- 神出鬼没二胡ミニコンサート
(しあわせの村 内、主に朝か夕方)
※既に10回敢行。100回を目指しています
- 学園祭10月10日(土) ステージ出場
- 里山音楽祭 11月3日(火) 祝日
いたやどの森板宿八幡神社裏
入場無料
- ▼連絡先: 喜多 義明

絵手紙クラブ

- 夏の絵手紙展
8月17日(月)~23日(日)
10時~16時(※初日:13時から
最終日:15時まで)
兵庫区文化センター2階ロビー
入場無料
- ★クラブ員とクラブOBの作品展示
- ▼連絡先: 代表 森崎 康文

※詳細は掲示板及びホームページにてご覧ください

イベントだより

ザ・カスタネッツ
●学園祭ステージ発表
10月10日(土)
★OBとともに3曲の演奏

朗読あかりの会
●学園祭ステージ
10月10日(土)
朗読 15分程度
★2作品朗読
▼朗読明かりの会

事務局だより

◆事務局職員の人事異動

<退任・転任> 3/31 付	<就任> 4/1 付
共通授業担当：絹川雅子	林 和代
園芸専攻担当：棚橋 徹	小田原 明
コーディネーター：天羽章司	山川 亨

おだはら
小田原 明

定年後はこれまでとは異なる業界、好きな領域で働きたいとの思いもあり、私も新1年生の気分で頑張っております。また、学生、講師、サポーター、スタッフ等の色々な方とのコミュニケーションも新鮮であり、私自身も勉強になります。今後ともよろしく願いいたします。

◆就任あいさつ

林 和代

学校が大好きな私は、皆さんとともに過ごすカレッジでの毎日にわくわくしています。私自身も学びながら、みなさんに入社してよかったなと思っていただけるよう、スタッフと力を合わせ努力して参ります。どうぞよろしく願いいたします。

山川 亨

北区で生まれ、垂水区で幼少期、長田区で思春期、須磨区で還暦を迎えました。シルバーカレッジでは、いろいろな学びがあり、自身が成長できることを楽しみに毎日勤務しております。これからもよろしく願いいたします。

文芸サロン

《俳句クラブ》

種時くやダムに水面の戻りきて
風薫る郷の無住寺阿修羅像
花びらに炎秘めたり紫木蓮
ぶらんこの音の乾ける幼稚園
君知るや揺るるミモザの花言葉
船頭の声響きぬて山桜
ふらここや乗る人もなく風に揺れ
訪ひて話の弾む日永かな
残雪の黒部に見えし昼の月

中井 芳樹
大高 松男
奥山 繁男
山本 成人
山本 成人
石井 牧子
石井 牧子
佐野 貴代美
佐野 貴代美

《川柳くらぶ》

若い時苦労買ったが何もなし
空の黄砂に渡航の自粛勧めてね
訃報欄我より若き人増えて
山開けて空埋め尽くす金の糸
お世辞にも若いと言われ鏡見る
春の光若葉萌えだし夏は直ぐ
旅先の非日常に若返る
懸命に論してみてもつわの空

濱田 一步
濱田 一步
楠元 直美
楠元 直美
右立 利盛
右立 利盛
戸島 峰光
戸島 峰光
戸島 峰光

《応募作品》

残不足WAONと鳴かず犬逃げた
テレシヨップ叫ばなくても聞こえます
社長やすいやすういで大儲け
老兵は四月になって若返り

安田 維之
安田 維之
池内 真知子
池内 真知子
池内 真知子

文芸サロンへの投稿や爽風への

「意見・感想はこちらから



グループわ だより

阪神淡路大震災が発足のきっかけです



グループわ の発足と活動紹介

1995年の阪神・淡路大震災のとき、KSCの学生たちが救援物資のボランティア活動を行ったことをきっかけに「特定非営利活動（NPO）法人 社会還元センター グループわ」が誕生しました。来年、30周年を迎えます。

福祉活動、健全なまちづくり、スポーツによる健康づくり、環境保全や啓発、国際協力、生活文化の継承など、多岐にわたる社会貢献活動を続けています。

皆さまとの接点

KSC 2階の廊下奥に本部があり、身近なところでは、入学式の集合写真撮影や販売、KOBESINIA元気ポイント説明会など、皆さまと接する機会も多くあります。

また、カレッジやふたば学舎でマンツーマンのパソコン教室を実施したり、家族向けには、わくわくひろば（5/4 右の

写真）、夏休み工作塾（8/11）、しあわせの村まつり（9月）などのイベントを開催予定しています。気軽にご参加ください。

KSCホームページ下部のグループわへのリンク（下のQRコードでも）やエレベーター横の掲示板をチェックしてください。また、KSC事務局前には年4回発行の情報誌「ぎやらりーわ」を置いていますので、ぜひ手に取ってご覧ください。



グループわで一緒に活動しませんか。
在学中でも入会可能、大歓迎です！
活動の詳細は、webサイトへ。
<http://wa-net.jp/group-wa/>



図書室 だより

皆さんの「学びなおし」の味方です



33期生の皆様、ご入学おめでとうございます。図書室は、「学びなおし」の味方であり学生交流の場でもあります。静かに読書や自習ができるだけでなく、ソファやパソコンが使える机などがあり、ゆったりくつろぐことができます。

まずは気になる棚を一周し、手に取った1冊を借りてみてください。同時に2冊まで2週間借りることができます。専門書、新聞に加え雑誌は14種類置いています。

読みたい本のリクエストも歓迎です。講義やクラブ活動で来校の折に合わせて、時間がある時にふらりと気軽にお立ち寄りください。授業のある日は10時から15時まで開室していますので、困っていることや分からないことは遠慮なく委員に声をかけてください。

図書委員は皆さんが快適に利用できる環境づくりに努めてまいります。新しい発見と仲間づくりと一緒に楽しみましょう。図書室でお会いできる日を楽しみにしています。



編集後記

33期生、入学早々初めての作業となりました



3月に30期の3年生が卒業され、新たに33期の新生を迎えました。この6月号は、入学式と新生生の入学の感想並びに歓迎交流会など中心に「新入生特集」として構成しています。

6月号は、新体制になって第1回目の編集・校正になり、ます。その作業を、32期が中心に33期の新情報編集委員の方と一緒に進むとともに、31期の情報編集委員の方にアドバイスをしながら編集・校正を行いました。

33期の情報編集委員は、初めての作業になりましたが、戸惑いながら編集・校正を積極的に取り組んできました。

情報編集委員は大変な委員のようにとらえられがちですが、編集会議ではワイワイと意見を出しながら進めます。またパソコンが苦手な人はパソコンを使わない担当に、情報誌に何を掲載するかなどの企画が得意な人は企画担当にといったように、得手不得手を考えて爽風を発行できるようにしています。

そして、それぞれの人々が、それぞれの経験を活かして皆さんに親しんでいただける「爽風」になるように心がけていきたいと思っています。

情報誌編集委員会